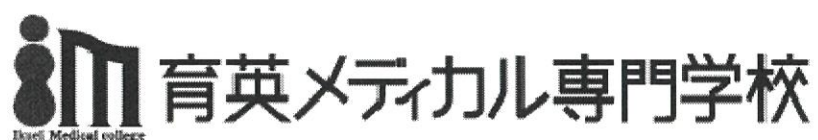


令和 6 年度



鍼灸学科 3 年

講義要項（シラバス）

講義科目名	鍼灸実技Ⅵ	分野区分	専門分野
担当教員名	吉原 嗣(実務経験有り)	講義回数	40 回
履 修 学 年	第 3 学 年	履修期間	通 年
講 義 内 容	・取穴部位確認 ・良導絡 ・鍼鎮痛 ・奇穴療法 ・特殊鍼法 ・経筋療法 ・三陰三陽 ・頭鍼 各種鍼灸療法を学ぶことにより、各施術の概要を理解する。		
評 価	実技試験をもって各期末の評価とする。 前期は7月29日、8月5日に実技試験を行う。(予定) 後期は11月25日、12月2日に実技試験を行う。(予定)		
備 考			
参 考 書 等	・必要に応じて資料の配布を行う。		

第 3 学 年					科 目 (鍼灸実技Ⅵ)		担 当 (吉原 嗣)	
	編	章	節	時 数	日 付	内 容		
前期	1		切経	1	4月8日	切経について		
	2			2	4月15日	取穴部位確認		
	3			3	4月22日	取穴部位確認		
	4		良導絡	4	5月13日	良導絡		
	5			5	5月20日	良導絡		
	6			6	5月27日	良導絡		
	7		鍼鎮痛	7	6月3日	鍼鎮痛		
	8			8	6月10日	鍼鎮痛		
	9			9	6月17日	鍼鎮痛		
	10		奇穴療法	10	6月24日	奇穴療法		
	11			11	7月1日	奇穴療法		
	12		特殊鍼法	12	7月8日	皮内鍼(赤羽式知熱感度法)		
	13			13	7月15日	特殊鍼法練習		
	14			14	7月22日	特殊鍼法練習		
	15	前期実技試験	実技試験	15	7月29日	実技試験		
	16			16	8月5日	実技試験		
	17			17	8月19日	試験総評		
	18		経筋療法	18	8月26日	経筋療法		
	19			19	9月2日	経筋療法		
	20		三陰三陽	20	9月9日	三陰三陽		
後期	21			21	9月23日	三陰三陽		
	22			22	9月30日	実技総合演習		
	23			23	10月7日	実技総合演習		
	24			24	10月21日	実技総合演習		
	25		DLPFC	25	10月28日	DLPFC		
	26			26	11月4日	DLPFC		
	27			27	11月11日	実技練習		
	28			28	11月18日	実技練習		
	29	後期実技試験	実技試験	29	11月25日	実技試験		
	30			30	12月2日	実技試験		
	31			31	12月9日	試験総評		
	32			32	12月16日	DLPFC		
	33			33	1月6日	DLPFC		
	34			34	1月20日	取穴演習		
	35			35	1月27日	取穴演習		
	36			36	2月3日	取穴演習		
	37		K式鍼灸スコア	37	2月10日	K式鍼灸スコア		
	38			38	2月17日	K式鍼灸スコア		
	39			39	2月24日	実技演習		
	40			40	3月3日	総括		
			合 計 時 数	40	※7/15・9/23・11/4・2/24は祝日ですが、授業日となりますのでご注意ください。 ※日程は変更されることがあります。			

講義科目名	衛生学・公衆衛生学	分野区分	専門基礎分野
担当教員名	金子 友則	講義回数	40 回
履修学年	第 3 学 年	履修期間	通 年
講義内容	この講義では医療の専門家としての視点から健康促進や疾病予防の重要性を理解し、将来の実践に生かせる知識とスキルを身につけることを目指す。 臨床現場だけでなく、地域や国レベルでの公衆衛生の観点からも、医療の役割を理解することが重要である。 また、常日頃から医療関係の情報など最新の社会動向に注意を払う事も重要である。		
評価	期末試験の得点(90%)と小テスト(10%)の合計点を各期末の評価とする。 小テストは各講義の最初に行い、範囲やテスト方法は都度指定する。		
備考	※ 進行状況や理解度に応じて、授業内容に変更が生じることもある。		
参考書等	教科書:衛生学・公衆衛生学 第2版(医歯薬出版株式会社)		

第 3 学 年 科 目 (衛 生 学 ・ 公 衆 衛 生 学)				担 当 (金 子 友 則)		
	編	章	節	時 数	日 付	内 容
前期	1	第1章		1	4月8日	ガイダンス 第1章 衛生学・公衆衛生学の歴史
	2			2	4月15日	第1章 衛生学・公衆衛生学の意義
	3	第2章		3	4月22日	第2章 健康 健康の概要
	4			4	5月13日	第2章 健康 健康管理
	5	第3章		5	5月20日	第3章 ライフスタイルと健康①
	6			6	5月27日	第3章 ライフスタイルと健康②
	7	第4章		7	6月3日	第4章 環境と健康①
	8			8	6月10日	第4章 環境と健康②
	9			9	6月17日	第4章 環境と健康③
	10	第5章		10	6月24日	第5章 産業保健①
	11			11	7月1日	第5章 産業保健②
	12			12	7月8日	第6章 精神保健①
	13			13	7月15日	第6章 精神保健②
	14	第7章		14	7月22日	第7章 母子保健
	15			15	7月29日	演習
後期	16			16	8月5日	演習(プレ試験)
	17	前期末試験		17	8月19日	前期末試験
	18			18	8月26日	第7章 母子保健と統計
	19	解答・解説		19	9月2日	解答・解説
	20	第8章		20	9月9日	第8章 学校保健①
	21			21	9月23日	第8章 学校保健②
	22	第9章		22	9月30日	第9章 成人・高齢者保健①
	23			23	10月7日	第9章 成人・高齢者保健②
	24	第10章		24	10月21日	第10章 感染症とその対策①
	25			25	10月28日	第10章 感染症とその対策②
	26			26	11月4日	第10章 感染症とその対策③
	27	第11章		27	11月11日	第11章 消毒法①
	28			28	11月18日	第11章 消毒法②
	29			29	11月25日	演習
	30			30	12月2日	演習(プレ試験)
	31	後期末試験		31	12月9日	後期末試験
	32	第12章		32	12月16日	第12章 疫学
	33	第13章		33	1月6日	第13章 保健統計②
	34			34	1月20日	第13章 保健統計②
	35			35	1月27日	演習
	36			36	2月3日	演習
	37			37	2月10日	演習
	38	解答・解説		38	2月17日	解答・解説
	39			39	2月24日	演習
	40			40	3月3日	総括
合 計 時 数				40	※7/15・9/23・11/4・2/24は祝日ですが、授業日となりますのでご注意ください。 ※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	関係法規	分野区分	専門基礎分野
担当教員名	今井 香菜	講義回数	20 回
履修学年	第 3 学 年	履修期間	前 期
講義内容	・医療従事者として、一般に必要な法的知識について理解する。 ・はり師、きゅう師として、業務に従事するうえで必要なあはき師法の概要の知識を学ぶ。 (経緯、免許、施術の制限、開業・広告など) ・はり師、きゅう師の業務遂行上、医療、保健、福祉と関わる上で理解しておくべき法令を知識として学ぶ。		
評価	・期末試験の得点で各期末の評価とする。 ・成績は試験の他、小テスト、出席状況、授業態度などを加味して評価する。		
備考	※進行状況や理解度に応じて、授業内容に変更がでることもある。		
参考書等	教科書:関係法規 第7版		

第 3 学 年							科 目 (関係法規)		担 当 (今井 香菜)	
	編	章	節	時 数	日 付	内 容				
前期	1	序論、第1章	法制定の目的、免許と試験	1	4月9日	法の体系、免許				
	2	第1章 あはき法	免許と試験	2	4月16日	免許の資格要件、免許に関する事務				
	3		業務	3	4月23日	業務の独占と業務の範囲、施術に関する注意				
	4			4	5月7日	施術所などに関する規則				
	5			5	5月14日	施術所の名称の制限及び広告の制限、業務の停止、無免許営業の取締り				
	6			6	5月21日	医療類似行為、罰則、守秘義務、個人情報保護法				
	7	第2章 関係法規	医事法規と医療制度	7	5月28日	医療法、医師法				
	8			8	6月4日	その他の医療従事者に関する法律				
	9		薬事法規	9	6月11日	薬機法、薬剤師法				
	10		衛生関係法規	10	6月18日	保険一般に関する法律				
	11			11	6月25日	予防衛生に関する法律、環境衛生関係の法律				
	12		社会福祉関係法規	12	7月2日	社会福祉法、生活保護法、各種福祉法				
	13		社会保険関係法規	13	7月9日	健康保険法、高齢者の医療の確保に関する法律				
	14			14	7月16日	介護保険法				
	15		医療保障制度	15	7月23日	保険の定義				
	16			16	7月30日	あはき法				
	17	前期末試験		17	8月20日	前期末試験				
	18			18	8月27日	医療関係法規全般				
	19	解答・解説 総括		19	9月3日	解答・解説				
	20			20	9月10日	総括				
				合 計 時 数	20	※日程は変更されることがあります。				

講義科目名	医療概論	分野区分	専門基礎分野
担当教員名	今井 香菜	講義回数	20 回
履修学年	第 3 学 年	履修期間	後 期
講義内容	医学の歴史、医の倫理に関する知識を学び、医学に関する基本的な知識を習得することは、医療従事者として大変重要である。 ・生命とは何か、科学の発達とともに進歩した医学の歴史、健康と病気、医療と保険などについて学ぶ。 ・医療従事者として、医療倫理や、インフォームド・コンセントとその問題点、さらに医療におけるQOLの向上など、施術者としての倫理について学ぶ。		
評価	・期末試験の得点で各期末の評価とする。 ・成績は試験の他、出席状況、授業態度などを加味して評価する。		
備考	※進行状況や理解度に応じて、授業内容に変更がでることもある。		
参考書等	教科書:医療概論		

第 3 学 年							科 目 (医 療 概 論)		担 当 (今 井 香 菜)	
	編	章	節	時 数	日 付	内 容				
後 期	21	第一章	医学と医療の歴史	1	9月24日	古代医学と伝統医学				
	22			2	10月8日	中世の医学				
	23			3	10月15日	近代の医学				
	24	第二章	現代の医学と医療	4	10月22日	西欧近代医学の特徴、近代医学の課題				
	25			5	10月29日	近代医学の課題、伝統医学				
	26			6	11月5日	医療従事者と医療施設、医療経済				
	27			7	11月12日	医療経済				
	28			8	11月19日	医療保険				
	29			9	11月26日	介護保険				
	30	第三章	医療従事者の倫理	10	12月3日	医療倫理				
	31			11	12月10日	後期末試験				
	32			12	12月17日	解答・解説				
	33			13	1月7日	医療倫理				
	34	総合演習		14	1月14日	総合演習①				
	35			15	1月21日	総合演習②				
	36			16	1月28日	総合演習③				
	37			17	2月4日	総合演習④				
	38			18	2月11日	総合演習⑤				
	39			19	2月18日	総合演習⑥				
	40				20	2月25日	総括			
				合計 時 数	20	※2月11日は祝日ですが、授業日となりますのでご注意ください。 ※日程は変更されることがあります。				

講義科目名	鍼灸実技Ⅷ	分野区分	専門分野
担当教員名	福島 功一(実務経験有り) 今井 香菜(実務経験有り) 荒木 宏之(実務経験有り)	講義回数	20 回
履修学年	第 3 学 年	履修期間	前 期
講 義 内 容	【 概要 】 ・4名前後を1グループとした、グループ学習の形式で行う。 ・後期から履修する臨床実習の前段階として、2学年までに履修した技術及び知識を更に高めることを目的とする。 ・模擬患者に対し、指導教員のもとで時間配分を考えながら、適切な診察及び検査を行なった上で施術方針を立て、適切な施術を行う。 ・各グループごとに施術担当・サポート担当・見学担当となり、各回ごとに担当を交替して行う。 ・施術終了後は各グループで指導教員を交え、ディスカッションを行う。 ・毎回、各担当ごとのレポート提出を義務付ける。 ※レポートは原則として実施日の翌々日を提出期限とする。 ※施術担当がグループ全員分をまとめて担当教員に提出すること。 ※欠席やレポート未提出は評価無し(0点)となるので注意すること。 【 目標 】 ・医療関係者として必要な、基本的な心構えと態度を理解した上で実践出来る。 (責任感, 守秘義務, 知識や技術の鍛練, 礼儀, 言葉遣い, 身だしなみなど) ・患者に対し、適切な医療面接や各種検査等を実施した上で治療計画を立てる事が出来る。 ・治療計画に応じた施術を適切に実施し、その結果を自ら評価する事が出来る。 ・カルテや予約表・領収書等の関係書類の管理と運用の実際を理解した上、実践出来る。 ・施術上の過誤や有害事象の防止と、仮に生じた際の適切な対処について理解した上、実践出来る。 【 授業形式 】 ・実習		
評 価	・演習から模擬実習2巡目までを鍼灸実技Ⅷの評価対象とする。 ・実習の平均点70%と期末試験の得点30%の合計点を期末の評価とする。 ・実習の評価は全ての担当を対象とする。(施術担当60%、サポート担当20%、見学担当20%) ・施術担当は演習から模擬実習2巡目まで計3回の平均点を前期評価の対象とする。 ・サポート担当は演習から模擬実習2巡目まで計3回の合計点(最高100点)を前期評価の対象とする。 ・見学担当は演習から模擬実習2巡目までのすべての回の合計点(最高100点)を前期評価の対象とする。 ・止むを得ない公欠の場合に限り、各担当の評価は60%とする。 ・出席状況・授業態度などは年度末の総合評価の時点で加味する。		
備 考	・各自、クリップボード、黒ボールペン2本を用意すること。 ・各担当の詳細は初回ガイダンス時に配布するプリントを参照すること。		
参 考 書 等			

第 3 学 年					科 目 (鍼灸実技Ⅷ)					担 当 (福島 功一・荒木 宏之・今井 香菜)				
	編	章	節	時 数	日 付	内 容								
1		ガイダンス		1	4月9日	実技Ⅷ及び臨床実習Ⅲ-aにおける各担当(施術・サポート・見学)の内容について解説する								
2			演習①	2	4月16日									
3			演習②	3	4月23日									
4		演習	演習③	4	5月7日	2巡回以降に開始する実習の流れに倣い、グループごとに演習を行う (1F鍼灸院及び実習室)								
5			演習④	5	5月14日									
6			模擬実習①	6	5月21日									
7			模擬実習②	7	5月28日									
8			模擬実習③	8	6月4日									
9			模擬実習④	9	6月11日									
10			模擬実習⑤	10	6月18日									
11		模擬実習	模擬実習⑥	11	6月25日	模擬患者に対し、診察・施術を行う(1F鍼灸院及び実習室)								
12			模擬実習⑦	12	7月2日									
13			模擬実習⑧	13	7月9日									
14			模擬実習⑨	14	7月16日									
15			模擬実習⑩	15	7月23日									
16			模擬実習⑪	16	7月30日									
17		前期末試験		17	8月20日	前期末試験								
18		模擬実習	模擬実習⑫	18	8月27日	模擬患者に対し、診察・施術を行う(1F鍼灸院及び実習室)								
19		解答・解説		19	9月3日	解答・解説								
20		模擬実習	模擬実習⑬	20	9月10日	模擬患者に対し、診察・施術を行う(1F鍼灸院及び実習室)								
合 計 時 数				20	※日程は変更されることがあります。									

講義科目名	臨床実習Ⅲ-a	分野区分	専門分野
担当教員名	福島 功一(実務経験有り) 今井 香菜(実務経験有り) 荒木 宏之(実務経験有り)	講義回数	24 回
履修学年	第 3 学 年	履修期間	後 期
講義内容	【 概要 】 ・4名前後を1グループとした、グループ学習の形式で行う。 ・外来患者に対し、指導教員のもとで時間配分を考えながら、適切な診察および検査を行い、施術方針を立て、適切な施術を行う。 ・各グループごとに、施術担当・サポート担当・見学担当となり、各回ごとに担当を交替して行う。 ・施術終了後は各グループで指導教員を交え、ディスカッションを行う。 ・毎回、各担当ごとのレポート提出を義務付ける。 ※レポートは原則として実施日の翌々日を提出期限とする。 ※施術担当がグループ全員分をまとめて担当教員に提出すること。 ※欠席やレポート未提出は評価無し(0点)となるので注意すること。 【 目標 】 ・医療関係者として必要な、基本的な心構えと態度を理解した上で実践できる。 (責任感, 守秘義務, 知識や技術の鍛練, 礼儀, 言葉遣い, 身だしなみなど) ・患者に対し、適切な医療面接や各種検査等を実施した上で治療計画を立てる事が出来る。 ・治療計画に応じた施術を適切に実施し、その結果を自ら評価する事が出来る。 ・カルテや予約表・領収書等の関係書類の管理と運用の実際を理解した上、実践できる。 ・施術上の過誤や有害事象の防止と、仮に生じた際の適切な対処について理解した上、実践出来る。 【 授業形式 】 ・実習		
評価	・模擬実習3巡目から臨床実習最終巡目までを臨床実習Ⅲ-aの評価対象とする。 ・実習の平均点70%と期末試験の得点30%の合計点を期末の評価とする。 ・実習の評価は全ての担当を対象とする。(施術担当60%、サポート担当20%、見学担当20%) ・施術担当は模擬実習3巡目から臨床実習最終巡目までの中で評価の高い上位3回の平均点を後期評価の対象とする。 ・サポート担当は模擬実習3巡目から臨床実習最終巡目までの中で評価の高い上位3回の合計点(最高100点)を後期評価の対象とする。 ・見学担当は模擬実習3巡目から臨床実習最終巡目までのすべての回の合計点(最高100点)を後期評価の対象とする。 ・止むを得ない公欠の場合に限り、各担当の評価は60%とする。 ・出席状況・実習時の態度などは年度末の総合評価の時点で加味する。		
備考	・各自、クリップボード、黒ボールペン2本を用意すること。 【 職場見学実習 】 ・自身および見学先担当者のレポート提出を義務付ける。 【 就職ガイダンス 】 ・参加を義務付ける。		
参考書等			

第 3 学 年				科 目 (臨床実習Ⅲ-a)		担 当 (福島 功一・荒木 宏之・今井 香菜)		
編	章	節	時 数	日 付	内 容			
	校内研修	校内研修	1	6月2日	校内規定に基づく校内研修に参加する(就職ガイダンス)			
		校内研修	2	6月2日				
21	臨床実習	臨床実習①	3	9月24日	模擬患者に対し、診療・施術を行う(1F鍼灸院及び実習室)			
22		臨床実習②	4	10月8日				
23		臨床実習③	5	10月15日				
24		臨床実習④	6	10月22日				
25		臨床実習⑤	7	10月29日				
26		臨床実習⑥	8	11月5日				
27		臨床実習⑦	9	11月12日				
28		臨床実習⑧	10	11月19日				
29		臨床実習⑨	11	11月26日				
30		臨床実習⑩	12	12月3日				
31	後期末試験 解答・解説		13	12月10日	後期末試験			
32			14	12月17日	解答・解説			
33	特別講義	特別講義①	15	1月7日	総括			
34		特別講義②	16	1月14日				
35		特別講義③	17	1月21日				
36		特別講義④	18	1月28日				
37		特別講義⑤	19	2月4日				
38		特別講義⑥	20	2月11日				
39		特別講義⑦	21	2月18日				
40		特別講義⑧	22	2月25日				
		校外学習	23	※			校内規定に基づく校外学習に参加する(学校指定の治療院等での職場見学実習)	
		校外学習	24	※			校内規定に基づく校外学習に参加する(学校指定の治療院等での職場見学実習)	
合 計 時 数			24	※2月11日は祝日ですが、授業日となりますのでご注意ください。 ※日程は変更されることがあります。				

講義科目名	鍼灸実技Ⅶ	分野区分	専門分野
担当教員名	今井 香菜(実務経験有り)	講義回数	40 回
履修学年	第 3 学 年	履修期間	通 年
講義内容	臨床の場面で必要な技術と、患者とのコミュニケーション能力を修得する。 臨床の現場で治療することが多いであろう運動器疾患に対して、 現代医学的な見方での治療法と基本的な技術を身につける。		
評価	前期 実技試験の得点を評価とする。 後期 認定実技審査の結果を評価点とする。 ①徒手検査、②はり実技、③きゅう実技の各試験、すべてに合格しなければならない。 ①～③のうち、1つでも不合格の場合は、その点数が評価となる。 ①～③のすべてに合格している場合は、その平均点を評価点とする。		
備考	進行状況や理解度に応じて、授業内容に変更がでることもある。		
参考書等			

第3学年 科目(鍼灸実技Ⅶ)

担当(今井 香菜)

		編	章	節	時数	日付	内容
前期	1		技術確認	鍼	1	4月10日	刺鍼手順と刺鍼の基礎的な技術の確認と復習
	2			灸	2	4月17日	施灸手順と施灸の基礎的な技術の確認と復習
	3		医療面接	問診	3	4月24日	医療面接基礎
	4				4	5月8日	東洋医学的医療面接
	5		症候別アプローチ	頸部	5	5月15日	前頸部に対する施術
	6				6	5月22日	後頸部に対する施術
	7			肩部	7	5月29日	肩部に対する施術
	8			背部	8	6月5日	背部に対する施術①
	9				9	6月12日	背部に対する施術②
	10			腰部	10	6月19日	腰部に対する施術①
	11		触診・測定法	触診・徒手検査	11	6月26日	徒手検査法 上肢
	12				12	7月3日	徒手検査法 体幹
	13				13	7月10日	徒手検査法 下肢
	14		総括	総括	14	7月17日	総括
	15		前期実技試験		15	7月24日	実技試験
	16		前期実技試験		16	7月31日	実技試験
	17		認定実技		17	8月21日	認定実技試験 徒手検査基礎練習
	18				18	8月28日	認定実技試験 徒手検査シュミレーション
	19				19	9月4日	認定実技試験 鍼基礎練習
	20				20	9月11日	認定実技試験 鍼シュミレーション
後期	21				21	9月25日	認定実技試験 灸基礎練習
	22				22	10月2日	認定実技試験 灸シュミレーション
	23				23	10月9日	認定実技試験 シュミレーション
	24				24	10月16日	認定実技試験 リハーサル
	25				25	10月23日	認定実技試験 リハーサル
	26		症候別アプローチ	腰部	26	10月30日	腰部に対する施術②
	27			殿部	27	11月6日	殿部に対する施術
	28				28	11月20日	股関節に対する施術
	29			肘部	29	11月27日	外側上顆炎に対する施術
	30				30	12月4日	内側上顆炎に対する施術
	31			手部	31	12月11日	手関節に対する施術
	32				32	12月18日	手指に対する施術
	33			大腿部	33	1月8日	大腿部に対する施術
	34			膝部	34	1月15日	膝関節に対する施術
	35			下腿部	35	1月22日	下腿部に対する施術
	36			足部	36	1月29日	足関節に対する施術
	37				37	2月5日	捻挫に対する施術
	38			頭部	38	2月12日	頭部に対する施術
	39			顔面部	39	2月19日	顔面部に対する施術
	40		総括	総括	40	2月26日	総括

合計時数 40 ※日程は変更されることがあります。

講義科目名	鍼灸理論Ⅱ	分野区分	専門分野
担当教員名	荒木 宏之	講義回数	20 回
履修学年	第 3 学 年	履修期間	前 期
講義内容	3年次における鍼灸理論はこれまでの学習の総括であり、鍼灸の基礎知識、臨床応用、リスク管理、治効理論、神経生理との関連など多岐にわたる。 近年、統合医療分野において東洋医学の存在が注目を集め、「神秘的な治療法」からEBM(Evidence-Based Medicine)の考えに則った臨床的治療効果が求められ、様々な科学研究が各機関で行われている。 そのような研究の中から、本講義では現時点でおおよそ解明されている鍼灸治療の効果、ならびに作用機序等を中心に学習していく。		
評価	・期末試験の得点で各期末の評価とする。 ・評価は定期試験の他、小テスト、出席状況、授業態度などを加味して行う。		
備考	※進行状況や理解度に応じて、授業内容に変更がでることもあります。		
参考書等	教科書：はりきゅう理論 第3版(・第1版)		

第 3 学 年 科 目 (鍼 灸 理 論 Ⅱ)					担 当 (荒 木 宏 之)	
	編	章	節	時 数	日 付	内 容
前期	1	第8章	鍼灸治効を理解するために 必要な基礎知識	1	4月10日	はじめに/生体の調節
	2			4月17日	生体の調節	
	3			4月24日	生体の調節/感覚	
	4			5月8日	感覚	
	5			5月15日	感覚	
	6			5月22日	熱傷	
	7			5月29日	体表の反応	
	8	第9章	鍼灸治効機序	8	6月5日	はじめに/鍼鎮痛
	9			6月12日	鍼鎮痛	
	10			6月19日	循環系と鍼灸/運動系と鍼	
	11			6月26日	消化系と鍼/泌尿器系と鍼	
12	7月3日			リラクゼーションと鍼/生体防御系と鍼灸		
13	第10章	鍼灸治効機序と臨床の接点	13	7月10日	刺激部位/刺激入力	
14			7月17日	鍼灸刺激による治効機序		
15			7月24日	関連学説		
16			7月31日	前期まとめ		
17			8月21日	前期末試験		
18	解答・解説		18	8月28日	演習①	
19			9月4日	解答・解説		
20			9月11日	演習②		
	合 計 時 数			20	※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	経穴概論Ⅱ	分野区分	専門分野
担当教員名	荒木 宏之	講義回数	20 回
履修学年	第 3 学 年	履修期間	後 期
講義内容	経絡経穴概論Ⅰで履修した内容を復習し、国家試験や臨床の場で役立つように各科目と関連付け、より詳細に理解することを目標とする。		
評価	・期末試験の得点で各期末の評価とする。 ・授業内で実施する小テスト結果は期末試験に加点される。 ※加点の詳細は授業内にて発表する。 ・評価は定期試験の他、小テスト、出席状況、授業態度などを加味して行う。		
備考	※進行状況や理解度に応じて、授業内容に変更がでることもあります。		
参考書等	教科書:新版 経絡経穴概論 第2版		

第 3 学 年 科 目 (経 穴 概 論 II)				担 当 (荒 木 宏 之)		
	編	章	節	時 数	日 付	内 容
後期	21	経絡・経穴の基礎		1	9月25日	実力確認テスト
	22			2	10月2日	要穴復習①
	23			3	10月9日	要穴復習②
	24			4	10月16日	要穴復習③
	25			5	10月23日	要穴・解剖(筋・腱・神経・動脈)復習①
	26			6	10月30日	要穴・解剖(筋・腱・神経・動脈)復習②
	27			7	11月6日	要穴・解剖(筋・腱・神経・動脈)復習③
	28			8	11月20日	体幹の経穴復習①
	29			9	11月27日	体幹の経穴復習②
	30			10	12月4日	頭部の経穴復習
	31	後期末試験		11	12月11日	後期末試験
	32	解答・解説		12	12月18日	解答・解説
	33	経脈・経穴		13	1月8日	総合演習①
	34			14	1月15日	総合演習②
	35			15	1月22日	総合学習③
	36	総合演習		16	1月29日	総合学習④
	37			17	2月5日	総合学習⑤
	38			18	2月12日	総合学習⑥
	39			19	2月19日	総合学習⑦
	40			20	2月26日	総合演習
合 計 時 数				20	※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	東洋医学臨床論Ⅱ	分野区分	専門分野
担当教員名	北上 貴史	講義回数	40 回
履修学年	第 3 学 年	履修期間	通 年
講義内容	東洋医学・西洋医学の両医学に基づき、各症候についての病態生理、鍼灸のアプローチの方法などを学び、患者を全人的に診る力を身につける。 ・現代中医学的な弁証を出来るようになる。 ・現代中医学的な弁証に基づいた施術方針を考えることが出来る。 ・西洋医学的な病態考察が出来るようになる。 ・西洋医学的病態考察に基づいた施術方針を考えることが出来る。		
評 価	期末試験の得点(60%)と実力試験の得点(30%)、小テストの獲得点数(10%)、問題ゼミの加点の合計点が各期末の評価となる。 小テストの得点を獲得するには、小テストを受験しなければならない。(遅刻・欠席は当該実施回の得点を獲得できない) 小テストは前期20回、後期20回、講義内容の復習テスト(全5問)を実施する。1回あたり0.5点となる。 1週間以内に間違いを直して提出した者は、1回あたりの満点(0.5点)を獲得できる。		
備 考	・進行状況や理解度に応じて、授業内容に変更がでることもある。		
参考書等	・必要に応じて資料の配布を行う。		

第 3 学 年 科 目 (東 洋 医 学 臨 床 論 Ⅱ)					担 当 (北 上 貴 史)	
	編	章	節	時 数	日 付	内 容
前期	1	第2章	治療各論	1	4月11日	気分障害(うつ状態)
	2			4月18日	めまい	
	3			4月25日	動悸・息切れ	
	4			5月9日	血圧異常	
	5			5月16日	睡眠障害	
	6			5月23日	食欲不振	
	7			5月30日	肥満	
	8			6月6日	やせ(るい瘦)	
	9			6月13日	悪心・嘔吐	
	10			6月20日	便秘	
	11			6月27日	下痢	
	12			7月4日	歯痛	
	13			7月11日	咳嗽と喀痰	
	14			7月18日	呼吸困難	
	15			7月25日	鼻閉・鼻汁	
	16			8月1日	脱毛症	
	17	8月22日	前期末試験			
	18	8月29日	耳鳴り・難聴			
	19	9月5日	解答・解説			
	20	9月12日	排尿障害			
後期	21			21	9月26日	ED
	22			22	10月3日	疲労と倦怠感
	23			23	10月10日	発熱
	24			24	10月17日	冷え
	25			25	10月24日	のぼせ
	26			26	10月31日	浮腫
	27			27	11月7日	掻痒感、肌荒れ、湿疹
	28			28	11月21日	顔面麻痺
	29			29	11月28日	歩行障害
	30			30	12月5日	口渇
	31	後期末試験 解答・解説		31	12月12日	後期末試験
	32		12月19日	解答・解説		
	33		1月9日	出血傾向		
	34		1月16日	女性特有の症候①		
	35			35	1月23日	女性特有の症候②
	36			36	1月30日	女性特有の症候③
	37			37	2月6日	小児特有の症候①
	38			38	2月13日	小児特有の症候②
	39			39	2月20日	老人特有の症候①
	40			40	2月27日	老人特有の症候②
合 計 時 数				40	※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	臨床医学各論Ⅱ	分野区分	専門基礎分野
担当教員名	荒木 宏之	講義回数	20 回
履修学年	第 3 学 年	履修期間	前 期
講義内容	「臨床医学各論」は鍼灸師に必要とされる疾患の診断および特徴・症状・検査・治療等に関する基礎的な知識について学びます。 ・疾患の特徴は基礎医学の知識を基盤に疾患の大まかな概念について講義します。 ・疾患の症状は臓器特有の症状および合併症に伴う症状について講義します。 ・疾患検査は臓器および疾患特有の検査値について講義します。		
評価	・期末試験の得点で各期末の評価とする。 ・成績は試験の他、小テスト、出席状況、授業態度などを加味して評価する。		
備考	進行状況や理解度に応じて授業内容に変更が生じることもあります。		
参考書等	教科書：臨床医学各論 医歯薬出版		

第 3 学 年 科 目 (臨床医学各論Ⅱ) 担 当 (荒木 宏之)

編 号		章	節	時 数	日 付	内 容
前期	1	第9章 循環器疾患	A節	1	4月11日	心臓疾患①
	2		A節	2	4月18日	心臓疾患②
	3		B節	3	4月25日	冠動脈疾患①
	4		B節	4	5月9日	冠動脈疾患②
	5		C節 D節	5	5月16日	動脈疾患・血圧異常
	6	第10章 血液・造血器疾患	A節	6	5月23日	赤血球疾患
	7		B節 C節 D節	7	5月30日	白血球疾患・リンパ網内系疾患
	8	第11章 神経疾患	A節	8	6月6日	脳血管障害
	9		B節	9	6月13日	感染性疾患
	10		C節	10	6月20日	脳・脊髄腫瘍
	11		D節	11	6月27日	基底核変性疾患
	12		E節	12	7月4日	その他の変性疾患
	13		F節	13	7月11日	認知症性疾患
	14		G節	14	7月18日	筋疾患
	15		H節	15	7月25日	運動ニューロン疾患
	16		I節	16	8月1日	末梢神経性疾患
	17	前期末試験		17	8月22日	前期末試験
	18		J節 K節	18	8月29日	神経痛・機能的疾患
	19	解答・解説		19	9月5日	解答・解説
	20	第12章 リウマチ性疾患・膠原病	A節	20	9月12日	リウマチ性疾患

合 計 時 数				20	※日程は変更されることがあります。	
---------	--	--	--	----	-------------------	--

講義科目名	臨床医学特論	分野区分	専門分野
担当教員名	荒木 宏之	講義回数	20 回
履 修 学 年	第 3 学 年	履修期間	後 期
講 義 内 容	「臨床医学特論」は鍼灸師に必要とされる疾患の診断および特徴・症状・検査・治療等に関する基礎的な知識について学ぶとともに、国家試験に向けた問題演習をおこないます。 ・疾患の特徴は基礎医学の知識を基盤に疾患の大まかな概念について講義します。 ・疾患の症状は臓器特有の症状および合併症に伴う症状について講義します。 ・疾患検査は臓器および疾患特有の検査値について講義します。		
評 価	・期末試験の得点で各期末の評価とする。 ・成績は試験の他、小テスト、出席状況、授業態度などを加味して評価する。		
備 考	進行状況や理解度に応じて授業内容に変更が生じることもあります。		
参 考 書 等	教科書：臨床医学各論 医歯薬出版		

第 3 学 年 科 目 (臨床医学特論)					担 当 (荒木 宏之)	
	編	章	節	時 数	日 付	内 容
21		第12章 リウマチ性疾患・膠原病	B節	1	9月26日	膠原病①
22			B節	2	10月3日	膠原病②
23		第13章 その他の領域	A節 B節	3	10月10日	小児科疾患・一般外科
24			C節	4	10月17日	麻酔科
25			D節	5	10月24日	婦人科疾患
26			E節	6	10月31日	皮膚科疾患
27			F節	7	11月7日	眼科疾患
28			G節	8	11月21日	耳鼻科疾患
29			H節	9	11月28日	精神科疾患
30			I節	10	12月5日	心療内科
31	後期	後期末試験		11	12月12日	後期末試験
32		解答・解説		12	12月19日	解答・解説
33		総合問題演習		13	1月9日	総合問題演習
34		総合問題演習		14	1月16日	総合問題演習
35		総合問題演習		15	1月23日	総合問題演習
36		総合問題演習		16	1月30日	総合問題演習
37		総合問題演習		17	2月6日	総合問題演習
38		総合問題演習		18	2月13日	総合問題演習
39		総合問題演習		19	2月20日	総合問題演習
40				20	2月27日	総合演習
合 計 時 数				20	※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	社会あはき学	分野区分	専門分野
担当教員名	北上 貴史	講義回数	20 回
履修学年	第 3 学 年	履修期間	前 期
講義内容	社会あはき学は古来より行われてきた、医療としてのあん摩・鍼・灸としての単一的な役割から社会環境の様々な変化に伴い、我々に要求される新たなニーズや社会との関わり方を中心に学習を進めていきます。 介護や美容などの需要とその関わりや、世界での鍼灸の現状を理解します。 必要に応じて資料を配布し、直近の鍼灸事情を伝えていきます。		
評 価	期末試験の得点(60%)と実力試験の得点(30%)、小テストの獲得点数(10%)、問題ゼミの加点の合計点が各期末の評価となる。 小テストの得点を獲得するには、小テストを受験しなければならない。(遅刻・欠席は当該実施回の得点を獲得できない) 小テストは前期20回、後期20回、講義内容の復習テスト(全5問)を実施する。1回あたり0.5点となる。 1週間以内に間違いを直して提出した者は、1回あたりの満点(0.5点)を獲得できる。		
備 考	進行状況や理解度に応じて授業内容に変更が生じることもあります。		
参考書等			

第 3 学 年 科 目 (社会あはき学)					担 当 (北上 貴史)		
編	章	節	時 数	日 付	内 容		
1			1	4月12日	解剖学的ガイダンス		
2			2	4月19日	解剖学的ガイダンス		
3			3	4月26日	解剖学的ガイダンス		
4			4	5月10日	あはき師の役割		
5			5	5月17日	あはき師を取り巻く環境①		
6			6	5月24日	あはき師を取り巻く環境②		
7			7	5月31日	あはき師を取り巻く環境③		
8			8	6月7日	地域で期待されるあはき師の業務①		
9			9	6月14日	地域で期待されるあはき師の業務②		
10			10	6月21日	地域で期待されるあはき師の業務③		
11			11	6月28日	現代社会におけるあはき師の役割①		
12			12	7月5日	現代社会におけるあはき師の役割②		
13			13	7月12日	現代社会におけるあはき師の役割③		
14			14	7月19日	施術所の経営①		
15			15	7月26日	施術所の経営②		
16			16	8月2日	施術所の展開①		
17	前期末試験		17	8月23日	前期末試験		
18			18	8月30日	総合演習		
19	解答・解説		19	9月6日	解答・解説		
20			20	9月13日	総合演習		
前期			合計 時 数	20	※日程は変更されることがあります。		

講義科目名	基礎医学特論	分野区分	専門分野
担当教員名	北上 貴史	講義回数	20 回
履 修 学 年	第 3 学 年	履修期間	後 期
講 義 内 容	臨床医学への理解を深めるためには、基礎医学としての解剖学・生理学・病理学の総合的知識が必要不可欠です。解剖学では生体の基本的構造、生理学では生体の基本的知識、病理学では病態を知ることができます。 本講義では、解剖学を中心として、基礎医学を総合的に学び、臨床医学へ生かすことを目標とします。		
評 価	期末試験の成績で評価する。		
備 考	進行状況や理解度に応じて授業内容に変更が生じることもあります。		
参 考 書 等			

第 3 学 年 科 目 (基礎医学特論) 担 当 (北上 貴史)

	編	章	節	時 数	日 付	内 容
後期	21			1	9月27日	筋の解剖生理
	22			2	10月4日	筋の解剖生理
	23			3	10月11日	循環器の解剖生理
	24			4	10月18日	循環器の解剖生理
	25			5	10月25日	神経系の解剖生理
	26			6	11月1日	神経系の解剖生理
	27			7	11月8日	消化器系の解剖生理
	28			8	11月22日	内分泌系の解剖生理
	29			9	11月29日	総合問題演習
	30			10	12月6日	総合問題演習
	31		後期末試験	11	12月13日	後期末試験
	32		解答・解説	12	12月20日	解答・解説
	33			13	1月10日	総合問題演習
	34			14	1月17日	総合問題演習
	35			15	1月24日	総合問題演習
	36			16	1月31日	総合問題演習
	37			17	2月7日	総合問題演習
	38			18	2月14日	総合問題演習
	39			19	2月21日	総合問題演習
	40			20	2月28日	総合問題演習
合 計 時 数				20	※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	リハビリテーション医学Ⅱ	分野区分	専門分野
担当教員名	佐野 潮里	講義回数	20 回
履 修 学 年	第 3 学 年	履修期間	前 期
講 義 内 容	リハビリテーション医学Ⅱでは、リハビリテーション医学Ⅰで学んだ、リハビリテーションに関する概略、評価法などを基に、各疾患ごとのリハビリテーションを学んでいくが、疾患に対する知識も同時に深めていき、その疾患や障害に対する適切なフォローアップに繋げていく。 具体的には解剖学、臨床医学各論、運動学などの複合的な知識が必要となってくるので、それらの講義内容の復習もその都度行っていきたいと考えている。		
評 価	期末試験の得点で各期末の評価とする。 出席状況・授業態度・小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味する。		
備 考	・進行状況や理解度に応じて、授業内容に変更がでることもあります。		
参 考 書 等	リハビリテーション医学 第4版 新版 リハビリテーション医学		

第 3 学 年				科 目 (リハビリテーション医学Ⅱ)		担 当 (佐野 潮里)			
	編	章	節	時 数	日 付	内 容			
前期	1	第1章 整形外科疾患	運動器疾患-上肢	1	4月12日	腱板損傷・肩関節周囲炎			
	2	"	"	2	4月19日	上腕骨近位部骨折・橈骨遠位端骨折			
	3	"	運動器疾患-下肢	3	4月26日	変形性股関節症・大腿骨近位部骨折			
	4	"	"	4	5月10日	変形性膝関節症・膝靱帯損傷			
	5	"	"	5	5月17日	半月板損傷・足関節靱帯損傷・アキレス腱断裂			
	6	"	運動器疾患-脊椎	6	5月24日	頸椎症性脊髄症・腰部脊柱管狭窄症			
	7	"	"	7	5月31日	椎間板ヘルニア・脊椎椎体骨折			
	8	"	"	8	6月7日	脊髄損傷			
	9	"	"	9	6月14日	切断・関節リウマチ			
	10	"	"	10	6月21日	関節リウマチ・スポーツ障害			
	11	第2章 神経疾患	神経疾患	11	6月28日	脳血管障害			
	12	"	"	12	7月5日	パーキンソン病			
	13	"	"	13	7月12日	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症・前萎縮性側索硬化症			
	14	"	"	14	7月19日	末梢神経障害・ポリオ(急性灰白髄炎)			
	15	第3章	内部障害	15	7月26日	虚血性心疾患・呼吸器疾患			
	16	"	"	16	8月2日	呼吸器疾患・糖尿病・腎・尿路疾患			
	17	前期末試験		17	8月23日	前期末試験			
	18	第4章	がん	18	8月30日	がん			
	19	解答・解説		19	9月6日	解答・解説			
	20	第5章	高齢者に多くみられる疾患	20	9月13日	骨粗鬆症・廃用症候群・認知症			
				合 計 時 数	20	※日程は変更されることがあります。			

講義科目名	総合特別講座	分野区分	専門分野
担当教員名	佐野 潮里	講義回数	20 回
履修学年	第 3 学 年	履修期間	後 期
講義内容	臨床の場において運動障害をもつ患者は非常に多い。 運動障害をもつ患者を治療していく上で、身体機能と構造についての知識が必ず必要となる。 正常な運動機能を熟知することで、患者の動作が正常運動からどの程度逸脱されているのか、 正確に分析することが障害の改善へとつながる。 今まで学習してきた解剖学、生理学の知識を持って取り組んでいただきたい。		
評価	本科目は鍼灸実力判定試験の結果を以て単位を認定する。 実力判定試験は原則、年4回実施する。 1・2回目の平均点を本試験として評価し、3・4回目の平均点を追再試験として評価する。 本試験で合格した者は、3回目を受験することで本試験の評価が確定する。		
備考	・進行状況や理解度に応じて、授業内容に変更がでることもあります。		
参考書等	新版 リハビリテーション医学 リハビリテーション医学 第4版		

第 3 学 年 科 目 (総合特別講座)						担 当 (佐野 潮里)	
	編	章	節	時 数	日 付	内 容	
	21	第6章	小児疾患	1	9月27日	脳性麻痺	
	22	"	"	2	10月4日	筋ジストロフィー症・二分脊椎	
	23	第2章	運動学	3	10月11日	バイオメカニクス・機能解剖学	
	24	"	"	4	10月18日	機能解剖学	
	25	"	"	5	10月25日	機能解剖学	
	26	"	"	6	11月1日	運動発達、姿勢制御	
	27	"	"	7	11月8日	姿勢制御、歩行	
	28	"	"	8	11月22日	歩行、運動学習	
	29	総合演習	総合問題演習	9	11月29日	総合演習①	
後期	30	"	"	10	12月6日	総合演習②	
	31	"	"	11	12月13日	総合演習③	
	32	"	"	12	12月20日	総合演習④	
	33	"	"	13	1月10日	総合演習⑤	
	34	"	"	14	1月17日	総合演習⑥	
	35	"	"	15	1月24日	総合演習⑦	
	36	"	"	16	1月31日	総合演習⑧	
	37	"	"	17	2月7日	総合演習⑨	
	38	"	"	18	2月14日	総合演習⑩	
	39	"	"	19	2月21日	総合演習⑪	
	40	"	"	20	2月28日	総合演習⑫	
	合 計 時 数			20	※日程は変更されることがあります。		

講義科目名	臨床実習Ⅲ－b	分野区分	専門分野
担当教員名	北上 貴史(実務経験有り)	講義回数	31 回
履修学年	第 3 学 年	履修期間	通 年
講義内容	鍼灸治療による各科疾患に対する治療方法を学ぶ。 近年、スマートフォン普及などに伴う情報化により、患者サイドの知識量が増加している。代表的な各科疾患に対して、最低限必要な西洋医学的知識、東洋医学での考え方、効果があった論文の分析などを行い、適切な鍼灸治療を模索していく。		
評価	筆記試験にて評価する。 筆記試験の内容は、本講座で学習した内容、国家試験に出題されやすい問題などを総合的に判断して出題するものとする。		
備考			
参考書等			

第 3 学 年 科 目 (臨床実習Ⅲ - b)				担 当 (北 上 貴 史)	
編	章	節	時 数	日 付	内 容
前期			1	4月5日	在校生オリエンテーション
			2	4月5日	在校生オリエンテーション
			3	5月24日	各科疾患へのアプローチの仕方
			4	5月31日	眼科領域の鍼灸治療(緑内障・黄斑変性)・座学
			5	6月7日	眼科領域の鍼灸治療(突発性難聴)・実技
			6	6月14日	耳鼻科領域の鍼灸治療(突発性難聴)・座学
			7	6月21日	耳鼻科領域の鍼灸治療(突発性難聴)・実技
			8	6月28日	「うつ病患者に対する医療面接」
			9	7月5日	精神科領域の鍼灸治療(うつ病・双極性障害)・座学
			10	7月12日	精神科領域の鍼灸治療(うつ病・双極性障害)・実技
			11	7月19日	消化器科領域の鍼灸治療(逆流性食道炎)・座学
			12	7月26日	消化器科領域の鍼灸治療(逆流性食道炎)・実技
			13	8月2日	婦人科疾患の鍼灸治療(不妊症)・座学
			14	8月30日	婦人科疾患の鍼灸治療(不妊症)・実技
			15	9月6日	泌尿器科疾患の鍼灸治療①(慢性腎炎・人工透析)・座学
後期			16	9月13日	泌尿器科疾患の鍼灸治療①(慢性腎炎・人工透析)・実技
			17	9月27日	泌尿器科疾患の鍼灸治療②(膀胱炎)・座学
			18	10月4日	泌尿器科疾患の鍼灸治療②(膀胱炎)・実技
			19	10月11日	代謝系疾患の鍼灸治療(糖尿病)・座学
			20	10月18日	代謝系疾患の鍼灸治療(糖尿病)・実技
			21	10月25日	神経系疾患の鍼灸治療(認知症)・座学
			22	11月1日	神経系疾患の鍼灸治療(認知症)・実技
			23	11月8日	皮膚科疾患の鍼灸治療(アトピー性皮膚炎)・座学
			24	11月22日	皮膚科疾患の鍼灸治療(アトピー性皮膚炎)・実技
			25	11月29日	総括
			26	12月6日	筆記試験①
			27	12月13日	筆記試験②
			28	12月20日	各流派の考え方など①
			29	1月10日	各流派の考え方など②
			30	1月17日	各流派の考え方など③
			31	1月24日	各流派の考え方など④
合 計 時 数			31	※日程は変更されることがあります。	